「清楚な花とふるさとへの旅」

新型コロナウイルスが猛威をふるい不安な日々が続きますが、

４月は沢山の花も咲き、新たな出会いもある晴れやかな月です。

明るく元気に新年度のスタートを切りたいですね。

今月は、春に咲く花をタイトルにした短編集

『桜の下で待っている』彩瀬まる著　実業之友社　2015 年

をご紹介します。

この単行本には、

「モッコウバラのワンピース」

「からたち香る」

「菜の花の家」

「ハクモクレンが砕けるとき」

「桜の下で待っている」

の５編が収められています。

タイトルの花は全てが春に咲く花。清楚なお花です。

各章では、主人公が新幹線に乗って各々のふるさとに向かいます。

この中の一編で本のタイトルでもある「桜の下で待っている」は・・

新幹線の社内販売の仕事をしている「さくら」は、

両親の不仲ゆえ、唯一の弟とは大変仲良く育ちました。

両親が離婚して大人になった今も姉弟の仲の良さは変わりません。

さくらは弟のことを“自分の一部“のように感じています。

その弟の結婚報告から想いを巡らせます。

“夢幻の花は咲き散らされ、青々と光る枝葉がガラス製のドームを破って伸びていく。

もうすぐこの部屋に、新しい季節がやってくる。”（本文より）

読後は、姉弟ともに心に傷を抱えつつも明日に向かって行く明るい余韻が残ります。

どの作品にも何気ない日々のできごとが穏やかに描かれています。

家族やふるさとの情景が目に浮かんでくる一冊です。